

令和7年度 岩手県立高田高等学校経営計画

校長：伊藤 正則

1 校訓・教育目標		【校訓】「至誠・錬磨・創造」 【教育目標】知・徳・体の調和のとれた人格の完成を目指し、地域や社会の復興・発展を担う有為な人材を育成する 「このような力を伸ばします」
2 ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	【学校共通】 ・幅広い知識と教養を身に付けるとともに、知識や技能を活用する力を育成します。 <u>(知)</u> ・自他の生命や人権を尊重し、他者と協働して活動する力を育成します。 <u>(徳)</u> ・生涯を通じて健康な生活を送ることができる健やかな心と体を育成します。 <u>(体)</u> ・震災の教訓を地域と共有しながら、防災・減災に関する高い意識を育成します。 <u>(復興・防災を担う人材)</u> ・SDGs(持続可能な開発)の理念を理解し、国際的視野を持って、地域や社会の復興・発展に貢献しようとするグローバル人材として必要な資質を育成します。 <u>(グローバル人材)</u> 【普通科】 ・多様な進路希望に対応できる確かな学力を育成します。 【海洋システム科】 ・将来の水産業を担う実践的知識と技術力を育成します。
	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	「このような学びを行います」 【学校共通】 ・「わかる授業」の実践や、「主体的・対話的で深い学び」により、確かな学力を身に付けさせる教育活動を進めます。 <u>(知)</u> ・特別活動や体験活動など学校の教育活動全体を通じて、豊かな心や協調性を培う教育活動を進めます。 <u>(徳)</u> ・体育・健康に関する指導など学校の教育活動全体を通じて、健やかな心と体を養う教育活動を進めます。 <u>(体)</u> ・自治体や関係機関と連携した復興・防災・減災教育により、震災の教訓を確実に引き継ぐ教育活動を進めます。 <u>(復興・防災を担う人材)</u> ・SDGs(持続可能な開発)の理念を踏まえ、地域や産官学と連携して行う、総合的な探究の時間を中心とする取組である「T×ACTION(タクシオン)」やキャリア教育、国際交流事業等を通じて、グローバル人材として必要な課題発見能力、解決能力等を培う教育活動を進めます。 <u>(グローバル人材)</u> 【普通科】 ・多様な進路希望に応じた教育課程を編成し、生徒個々の進路希望の実現を図る教育活動を進めます。 【海洋システム科】 ・水産科目の授業や実習を通して、実践的知識の習得と技術力を養成する教育活動を進めます。
	(3) 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	「このような生徒を待っています」 【学校共通】 <u>基礎的な学力を有しており、以下のいずれかに該当する生徒を募集します。</u> ・本校の教育内容に興味・関心を持ち、入学後も前向きに取り組む生徒。 ・自分や仲間を大切にし、個性や長所を伸ばそうと努力する生徒。 ・自らの成長や夢の実現を通して、地域や社会の復興・発展に貢献したいと考える生徒。 ・部活動や生徒会活動などに意欲的に取り組む生徒。
3 魅力化協働パートナー		地元自治体・地域関係者・地元産業界・大学

(様式1)【高等学校用】

		重点目標	達成指標
		ア 基礎基本の定着と学力の向上を図る	・学校評価において、「わかりやすい授業をはじめ、丁寧な学習指導が行われている」と答えた生徒の割合【90%以上】
(1) 今年度の重点目標		イ 地域と連携・協働した教育活動を推進する	・学校評価において、「学校は地域との連携を図っている」と答えた生徒の割合【90%以上】
		ウ 復興・防災・減災教育を充実させる	・学校評価において、「防災意識を高める指導や訓練を通して、安全教育に努めている」と答えた生徒の割合【90%以上】
		エ 海洋システム科の活性化を図る	・学校評価において、「地域水産業の実態を踏まえ、興味・関心が高められる授業・実習がなされている」と答えた生徒の割合【90%以上】
		オ 生徒の人格を尊重し、不適切な指導を根絶する組織作りを推進する	・学校評価において、「教職員の生徒・保護者への対応は適切である」と答えた生徒の割合【90%以上】
		カ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる	・学校評価において、「いじめや嫌がらせが無く、落ち着いた学校生活を送っている」と答えた生徒の割合【90%以上】
4 目指す 学校像	(2) 取組方針	ア 基礎基本の定着と学力の向上を図る (ア) 生徒個々の実態に応じた個別最適な学びを推進し、基礎学力の定着を図る。 (イ) ICT及びデジタルの効果的活用を促し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育成する。 (ウ) 授業公開や互見授業等を積極的に実施し、授業力の向上を図る。	
		イ 地域と連携・協働した教育活動を推進する (ア) 自治体や関係機関との連携を密にし、T×ACTION(Takata Action)を通して、地域課題解決に向けた積極的な探究活動を推進する。 (イ) キャリア教育や国際交流活動等を通じて、グローバル人材としての資質を育成する。 (ウ) 「学校運営協議会」の充実を図り、地域と一体となった魅力ある学校づくりを進める。	
		ウ 復興・防災・減災教育を充実させる (ア) 【いきる】【かかわる】【そなえる】に基づいた復興教育等の取組を推進する。 (イ) 自治体、関係機関と連携し、震災の教訓を確実に引き継ぐ教育の充実を図る。 (ウ) 避難訓練や防災講話の内容を精査し、より実効的なものとなるよう工夫する。	
		エ 海洋システム科の活性化を図る (ア) 6次産業化に対応したカリキュラム及び実習体系の確立を図る。 (イ) 地域産業や関係機関との連携を通して、地域産業に貢献する人材を育成する。 (ウ) 体験型活動等の実施により、海洋システム科の魅力を地域に発信する。	
		オ 生徒の人格を尊重し、不適切な指導を根絶する組織作りを推進する (ア) 全教職員が、県立学校生徒の重大事案の再発防止に向けた本校の宣言「体罰・暴言防止に向けて、生徒の人格を尊重し、思いやりのある指導を行うこと」を常に意識し、この宣言に則った指導を行う。 (イ) コンプライアンス遵守のために、管理職や同僚への「報告・連絡・相談」の徹底を図る。 (ウ) 生徒の些細な変化を見逃さずに教職員等で情報共有し、組織で対応する。	
		カ 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる ○いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくり（未然防止） (ア) 生徒に愛情をもって接し、いじめに向かわせない環境作りに努める。 (イ) 生徒のこころのサポートに積極的に取り組み、学校生活を安定させる。 (ウ) 授業や行事の中で生徒が活躍できる場面づくりに努める。	